

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

Bolor Nasanbat（ボロル ナサンバット）氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Kaempferol therapy improved MC903 induced-atopic dermatitis in a mouse by suppressing TSLP, oxidative stress, and type 2 inflammation.
(ケンフェロールはTSLP、酸化ストレスおよび2型炎症を抑制することにより、マウスのMC903誘導性アトピー性皮膚炎を改善した。)
Journal of Dermatological Science, 111 (巻) :93 ~ 100 (頁) , 2023 (年)
Bolor Nasanbat, Akihiko Uchiyama, Syahla Nisaa Amalia, Yuta Inoue, Yoko Yokoyama, Sachiko Ogino, Ryoko Torii, Mari Hosoi, Sei-ichiro Motegi

論文の要旨及び判定理由

本論文ではMC903外用誘導発症性のアトピー性皮膚炎モデルマウスを用いてケンフェロールの治療効果を検討した。ケンフェロール投与群ではコントロール群と比較し皮膚炎が有意に改善した。またケンフェロール投与群ではTEWL、バリア機能障害、TLSPの発現や炎症細胞浸潤（IL-4/IL-13産生CD4陽性リンパ球）、酸化ストレスの抑制効果が示された。本研究ではケンフェロールを用いた新たなアトピー性皮膚炎に対する治療への可能性が示されており、今後の医学の発展への貢献が期待されると認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

(2023年12月25日)

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
生体防御学分野担任 神谷 亘 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
眼科学分野担任 秋山 英雄 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任 石井 秀樹 印

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

本研究成果から今後の臨床応用にあたってどのように役立てていくのかについておよびアトピー性皮膚炎における酸化ストレスの病態への関与について

試問し満足すべき解答を得た。

(2023年12月25日)

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）
皮膚科学分野担任

茂木 精一郎 印

群馬大学教授（医学系研究科）
生体防御学分野担任

神谷 亘 印